

第6学年 国語（書写）

第6学年の学習到達目標

- (1) 文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書く。
- (2) 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方を理解しながら、文字の形を整えて書く。
- (3) 毛筆を使用して、字配りよく書く。

第6学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	①姿勢と筆記具 ・学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ●毛筆の姿勢・筆の持ち方を確認する。 ●学習の進め方を考える。 ●既習の筆使いについて確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毛筆の姿勢・筆の持ち方 ○既習の筆使い
	②組み立て方（三つの部分）〈湖〉	<ul style="list-style-type: none"> ●「湖」の三つの部分の組み立て方を理解する。 ●「さんずい」の書き方を理解する。 ●既習事項にも注意して、「湖」を整えて書く。 ●硬筆で、三つの部分の組み立て方に注意して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○【字形の整え方】組み立て方（三つの部分） ○「さんずい」の書き方 ○毛筆の学習を生かして、三つの部分の組み立て方について硬筆で学習すること
	③筆順と字形〈成長〉	<ul style="list-style-type: none"> ●「成」「長」の筆順と画の長さ、画の接し方を理解する。 ●既習事項にも注意して、「成長」を整えて書く。 ●硬筆で、画の長さの注意して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○【字形の整え方】筆順と字形（画の長さ、画の接し方） ○【字形の整え方】画の長さ（「横画」「払い」「曲がり」「反り」）
	☆用紙に合わせて書く	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な筆記道具を選択する。 ●用紙に合わせて、適切な配列で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な用具の選択 ○適切な配列で記述
後期	④字配り（ひらがな）〈あこがれ〉	<ul style="list-style-type: none"> ●平仮名の筆使いを理解する。 ●「あこがれ」の行の中心を理解する。 ●既習事項にも注意して、「あこがれ」を整えて書く。 ●硬筆で、平仮名の筆使いと行の中心に注意して書く。 ●平仮名の成り立ちを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○【平仮名の筆使い】軽い始筆、線の丸み ○【字配り】行の中心 ○毛筆の学習を生かして、平仮名の筆使いと行の中心について硬筆で学習すること ○平仮名の成り立ち
	⑥字配り〈世界平和〉	<ul style="list-style-type: none"> ●字間・行間、余白のとり方を理解する。 ●「世界平和」の行の中心を理解する。 ●既習事項にも注意して、「世界平和」を整えて書く。 ●硬筆で、字間・行間、余白に注意して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○【字配り】字間・行間、余白、行の中心 ○毛筆の学習を生かして、字間・行間、余白のとり方について硬筆で学習すること。
	☆横書き	<ul style="list-style-type: none"> ●文字の大きさと字間に注意して、横の行を整えて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○【配列】文字の大きさ、字間、横書き
	⑥点画や文字と文字のつながり（小筆）〈俳句〉	<ul style="list-style-type: none"> ●点画や文字と文字のつながりを理解し、小筆（筆ペン）で俳句を書く。 ●硬筆で、点画や文字と文字のつながりに注意して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○点画や文字と文字のつながりを理解すること ○小筆（筆ペン）で俳句を書くこと
	☆書きぞめをしよう〈希望〉	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項を生かして書き初めをする。 ●小筆の持ち方や使い方を確認し、名前を丁寧に書く 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を生かした書き初め ○小筆の持ち方や使い方、書き初め用紙に書く場合の姿勢 ○小筆で名前を丁寧に書くこと

	⑦ 〈未来の夢〉	<ul style="list-style-type: none"> ●6年で学習したことをまとめる。 ●自分の目当てを持って学習する。 ●自分の目当てに対して、自己評価をする。 ●相互評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○6年で学習したことのまとめ ○【筆使い】平仮名 ○【字形の整え方】組み立て方、筆順と字形 ○【字配り・配列】行の中心、文字の大きさ、字間・行間、余白 ○毛筆の姿勢・筆の持ち方 ○自己・相互評価
<p>(1) 評価の観点</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】 文字に対する関心を持ち、自分の課題に沿って活動を振り返り、そこからさらに新しい課題を見付け学習している。</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】 文字の形、大きさ、配列、毛筆では、点画の筆使い、文字の組立て方、字配りなどを理解して文字を正しく書く。</p>		<p>(2) 評価の方法</p> <p>① 児童の学ぶ意欲や思考力の重視 どのように書こうとしているか、どのような工夫がなされているか、自分とは違ったよさは何かを感じ取り、お互いが認め、学ぶという姿勢を大切にします。</p> <p>② 作品を掲示することにより、自分や友達作品のよさを認め合います。</p> <p>③ 書き上がった作品だけでなく、学習に取り組む態度や自分のめあてに沿って活動を振り返り、そこからさらに新しいめあてを見付け、学習を進める態度を大切にしていきます。そして、よい子のあゆみでは、毎時間や学期を通じての取り組みをもとに、国語科の「主な観点と達成の様子」の中に到達度で示します。</p>	

特色ある学習方法

<p>(1) 毛筆の学習では、意識的に大きく書くことにより、硬筆では理解されにくい部分や書き方（点画の接し方や交わり方、点画の方向など）を確認できます。そのため、毛筆では、日常の硬筆の基礎・基本になるよう、点画や文字、文を書く力の定着を図ります。</p> <p>(2) 書写の学習を、生活に生きる学習とさせるために、作文や手紙、横書きの書式を学習し、日常に生きて働く書写力の育成に努めます。</p> <p>(3) 自分のよさを生かしたり、互いのよさを認め合ったりしながら学習を深めることができるように工夫し、自己評価しながら学習を進める態度を身に付けていきます。そのために、自己評価したものを活用したり、学習のはじめに書いたものと学習後に書いたものを比べ、学習の成果を確認し学ぶ喜びを味わったりします。</p>

使用教材等

<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書「新しい書写6年」東京書籍 ○ 硬筆の学習の場合・・・書写ノート、鉛筆（2B）、フェルトペン ○ 毛筆の学習の場合・・・すずり、墨液、大筆、小筆、筆巻き、下敷き、文鎮、ぞうきん <p>この他に、新聞紙を閉じたものも用意させてください。書き上がった作品の処理や後片付け等に使います。</p>

留意事項

<p>(用具を大事に使おう) 用具の取り扱いや手入れの仕方については学校で指導しますが、ご家庭の方でも、声かけをお願いします。</p> <p>(用具の手入れ法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すずり：使い終わったら、残っている墨液をスポイトで入れ物に戻します。失敗した半紙で、すずりに付いている墨液をふきとります。 ・ 筆：使い終わったら軽く水洗いをし、紙で水気を取り、形を整えて乾かします。 ・ 下敷き：しわにならぬように気を付けます。
--